

# 東アジア レビュー

2024年9・10月合併号

[HTTP://EARI.JP/](http://EARI.JP/)

- 【視点】 尹錫悦大統領の光復節演説の波紋  
姜英之 …1
- 【南の窓】 こぎ着けた佐渡金山の世界遺産登録  
編集部 …3
- 【北の窓】 水害復旧に躍起となる理由  
編集部(Y/J) …4
- 【行事案内】 鄭成長センター長 出版記念講演・祝賀会 …7

# 【視 点】尹錫悦大統領の光復節演説の波紋

姜英之 (東アジア総合研究所理事長)

## 韓国は独立したか？ の疑問に答える

日本の終戦記念日にあたる8月15日、ソウルでは、韓国政府主催の恒例の「8・15光復節記念式典」が行われたが、今年の式典は、変則的だった。いつもなら与党だけでなく野党の政治家・国会議員らも皆出席していたが、今年は異例にも主だった野党政治家たちが出席を拒んだのだ。国立の独立記念館の館長に保守派の歴史学者、金亨錫(キム・ヒョンソク)氏が任命されたことへの反発からであった。金氏が、日本の植民地統治が戦後の経済発展につながったとする、いわゆる「植民地近代化論者」であり、ニューライトの人物だという理由からだ。

市民団体である「祖国光復会」の李鍾賛(イ・ジョンチャン)会長は、金氏の見解が日本帝国主義からの独立運動を冒涇するものと強く批判、民族独立精神の宣揚を旨とする独立記念館の代表にふさわしくないと激烈に就任に反対した。これに革新系の「共に民主党」議員や、「祖国革新党」系の議員らが同調し、相次いで欠席したのだ。

このように一悶着が繰り広げられた今年の光復節式典をめぐる、産経新聞ソウル駐在客員論説委員の黒田勝弘氏が面白いコラムを書いていた(8月23日付)。

黒田氏の知り合いのさる在韓日本人ビジネスマンが「韓国はまだ独立していないのじゃないの？ 今も独立運動をやっているみたい」と首をかしげていた、というのだ。先進国になったというのに、今なお昔話(歴史)をネタに、親日だ、反日だと言って政治的対立を繰り返しているからだ一と書いている。他方で、尹錫悦大統領が8・15記念演説で

日本との過去には、一切触れなかった点について、脱・反日と過去離れという対日友好路線で一貫していると黒田氏は評価している。

ただ、尹大統領は演説で一言「韓国は昨年、1人当たりの国民所得で日本を追い越した」と述べたとし、この解釈について黒田氏は「もう韓国は昔の韓国ではない、過去(歴史)のことはいいではないか、自信と余裕を持とうじゃないか」という国民へのメッセージである、と分析した。なるほど、そう解釈するのは当たっているともいえる。

だが、現実には国民の大多数が反日と親日で両断されているわけではない。確かに議会の多数派、野党の「共に民主党」は「親日売国奴」「親日屈辱外交」と強い口調で政権批判し、反日色を出しているが、日本との友好親善を拒絶しているわけではない。また少数与党である「国民の党」は、尹大統領の脱・反日路線を積極的に支持しているが、日本の政治家の靖国神社参拝に反対、独島(竹島)領有権主張など、歴史問題に完全に目をつぶっているわけではない。国民の多くは、親日でもなく反日でもなく、高技術製品の日本、民度の高い日本、自然景色の良い日本が好きで、歴史への反省がない日本が嫌いなだけである。

## 日本こそ克己が必要ではないのか？

反日、親日の相変わらぬ対立を擲擧する黒田氏が見落としているのは、韓国がまだ独立していないということだ。もう独立して長く、いまは先進国にもなったのだ、い

つまで「後進国」の人間のように過去（歴史）にこだわるのかと言いたげであろうが、おっとどっこい韓国は、1人当たりGDPだけが、日本を抜いただけで、残念ながらまだ先進国型経済構造を持ち合わせていない。

自信と余裕をもって過去（歴史）離れずる状況にはない。尹大統領が指摘した通り、南北統一を成し遂げてこそ、独立達成なのであり、先進国となるのであるから、独立した先進国だから、もう過去離れせよとは、お門違いということになる。

黒田氏は、反日ではなく、全斗煥政権時代の克己を評価しつつ、それもまだ日本にとらわれている感じがあるので克己よりも自らを克服する克己を優先すること＝過去離れを、韓国の政治（野党）や知識人、メディアに求めている。善意のアドバイスと受け止めることもできるが、逆に日本の政治（与党）、知識人、メディアに対し、いまさらながら、1998年に発表された日韓パートナーシップ宣言第1項目に明記された「歴史に真摯に向き合う」ための克己を要望したい。



## 【南の窓】

# こぎ着けた佐渡金山の世界遺産登録

## 編集部

ユネスコ(国連教育科学文化機関)の世界遺産産委員会は7月27日、インドのニューデリー第46回会議で、日本から出されていた新潟県の佐渡島にある金鉱山の世界遺産登録を決めた。従来通り、委員会メンバー21国による全会一致。

世界遺産の登録を目指す日本の市民団体が運動を始めてから27年かかって、やっと目標にこぎ着けた。日本の文化遺産として登録されたのは21件目だ。



露天掘り競争で山頂が崩落したとされている「道遊の割戸」(どうゆうのわりと)



北沢地区の選群

近世の世界文化遺産については、植民地時代の人権状況や民族差別が絡んで、日韓両国間でもめてきた。2015年、長崎県の沖合海上にコンクリート建物が立ち並ぶ旧高島炭鉱跡の端島(通称「軍艦島」)が、「明治日本の産業遺産」として世界遺産に登録された際もそうだ。韓国では朴槿恵大統領の時代だ。

日本では、明治の対外開国以降、第二次大戦の敗戦までを「遅れて欧米に追い付く活動に励み、植民地になるのを免れた」と肯定的に受け止める向きが多い。人権侵害、自由抑圧を批判する向きは「自虐史観」と糾弾されかねなかった。

一方、韓国では日本の植民地時代を「日帝強占期」と呼ぶ。「強制されて」と常に言及され、こちらも自虐的とか他虐的言い回しが色濃く残り続ける。

端島の登録問題では結局、日本側がユネスコ委員会での討議の中で「犠牲者を記憶にとどめるため適切な措置をとる」と発言し、2020年に「産業情報センター」を東京に設けた。

いずれ訪れ展示内容を見たいと調べると、大江戸線若松河田町が最寄り駅で、総務省第2庁舎の別館にあるという。しかも「完全な事前予約が求められ、観光バスや乗用車の駐車場はない」という。お役所仕事で、大勢に見てもらおうという教育的配慮、サービス精神は全くない。

## 安倍晋三氏による「歴史戦」発言

東京の産業情報センターのあり方について韓国側では不満がくすぶり続けた。

世界文化遺産部会を管轄する文化庁の文化審議会が2021年、新潟県などの動きを受けて佐渡金山の世界文化遺産登録をユネスコに推薦しようとしたが、韓国側の反発を考慮し見送った。与党自民党が強く反発、特に安倍晋三元首相が2022年1月に自分のフェイスブックに「歴史戦を挑まれている以上は避けることができない」と強硬意見を載せた(半年後の7月に第2次安倍内閣が誕生)。文化庁も2023年1月に佐渡金山への推薦状を再提出することに踏み切った。

ユネスコの諮問機関であるイコモス(国際記念物遺跡会議)は、明治以降の史跡が多い地区を除外したり、説明や展示で明治以降の全体の歴史を扱うよう求める「情報照会」を新潟県などに勧告したことが、今年6月に報道された。日韓の水面下で、7月の東京での外務次官による戦略対話、7月ラオスでの上川陽子、趙兌烈(チョ・テヨル)日韓外相会談などで双方のメンツを立てた合意にまとめ上げた。



オープンした相川郷土博物館

8月15日の終戦記念日(韓国での光復記念日)に、韓国の民放「MBCテレビ」が、オープンしたばかりの相川郷土博物館の内部と周辺に集まる観光客を紹介する番組を流した。

インターネットに残っていた番組内容を見ると、マイクを向けられた30代ぐらいの日本人男女が「観光ですから…」とあっさり答えていた。朝鮮からの鉱夫が多かったのを知っていましたか、という韓国人記者の質問に、「まったく知りませんでした」と悪びれず答え、当然のとうに付け加えた発言だった。反発するのではなく「観光聖域論」を当然の常識のように掲げていた。

## 上からの押し付けでなく自分の頭で

新潟県佐渡市にある「相川郷土博物館」が世界遺産の登録決定の翌日、7月28日にオープンした。復元された江戸時代の佐渡奉行所の近くに位置し、木造の由緒ある種物だ。1940年から45年にかけて約1500人の朝鮮半島出身の労働者が金山などで働き、危険な作業に就く割合が高かったなど数多くの資料が集められているという。

佐渡の市民団体メンバーが1990年代から地元の資料をまとめるだけでなく韓国に出張して当時の関係者から話を聞いてきた。



#### 総書記が現場に、異例の被災者見舞い

北朝鮮の北部にある鴨緑江周辺を7月下旬に襲った大規模な洪水の発生から1か月過ぎたが、現在も現場近くの新義州では復旧作業が引き続いており、作業は難航続きだととされる。

金正恩総書記が現場に直行、被災者たちを慰労し、復旧作業を急ぐよう指示したり、大忙しの支持の毎日が続いていると伝えられている。

関心を引くのは、金総書記が、現場で被災者へ言葉を掛けるだけでなく、珍しく自分の口から、韓国を直接非難する言葉をぶつけたことである。まず、洪水被害が起きるやいなや、8月3日には、洪水で孤立した住民を救助した空軍ヘリコプター部隊を激励、祝賀した現場で、韓国のマスコミが北朝鮮の被害地域の人命被害が1000人または1500人を超えると推測されると報じたことに対し、事実と異なる虚偽報道をしていると非難、「こうした謀略宣伝にしがみついたソウルの輩どものよこしまな目的は目に見えている」とし、「敵はどこまでも敵だ」と被災民の前で、虚偽宣伝を信じてはいけない、「韓国のごみども」に対する正しい認識が重要だ、と力説した。

(相手をたたき非難は、ほぼ従来通り。韓国聯合ニュース8月11、12日による)

同8、9日には、洪水地域の義州郡を訪問、平安北道、慈江道、両江道など水害で家屋を失った子供や学生、老人、病人などの弱者を平壤に呼び、復旧期間中、安心して暮らせるようにすると言明した。金総書記は、猛暑の中、臨時避難所に居住する被災民に対して慰労の言葉をかけた。救助隊員の人数が少な

く、十分な手当がができず申し訳ない、と何回もわびた。

金総書記は、先代である金正日総書記と違って、政策の失敗や、不調に対しては率直に認め、人民に謝罪する親しみのある指導者としての姿を従来から見せてきた。

今回の洪水に対して、これまで以上の復旧作業の力の入れ方、被災民に対する慰労・激励行動は異例ともいえる。また、韓国に対し、「ごみの国」などと、口汚い言葉を浴びせかけたのも注目に値する点だ。



#### 民心離反の抑えに必死

これに対し、韓国の統一省は、「内部の不満を鎮めるためだ」と分析した。(聯合ニュース8月12日)

ク・ビョンサム統一部スポークスマンは12日、定例記者会見で、社会的力量を総動員して非常事態に対処しなければならないときに、「非難の対象を外部に向けることによって民心離反を最小限に抑える意図が見える」と明らかにした。

過去を振り返ってみれば、韓国非難は金正恩総書記の実妹の金与正党副部長か、対南担当機関名義の談話文形式が普通であるのに、今回は金総書記が直接、韓国マスコミを非難するとは、尋常ではないと推察される。

北朝鮮が最も恐れたのは、1994、5年に同じく大洪水が発生し、食糧難と重なり、200万－300万人が餓死したとされる「苦難行軍」の記憶が人民の間で、思い出す事態を恐れたのだろうと思われる。

今回の洪水、水害に際しては、餓死者が出る状況ではないと思える。国内の食糧需給がひっ迫している情報はないし、コロナ禍明けで中口国境封鎖も解かれ、中国とロシアからの食糧支援が奏功するだろうと見込まれている状況だからだ。

だが、最近になり、在キューバ外交官だけでなく、国内の軍人、民間人の韓国への亡命が続き、民心動揺が見られる。

韓国政府の人道支援には、何の反応も見せなかった北朝鮮の金正恩総書記。だが、ウクライナ戦争を契機に蜜月関係にあるロシアのプーチン大統領が、見舞いメッセージと人道支援を伝えると、金総書記は、ロシアからの支援を受けると、即座に反応した。一步間違えると、民衆暴動も起きかねない状況が生まれているのではないかと推測することも可能だろう。

こうした中で、米韓両軍は8月19日から29日まで、朝鮮半島有事を想定した定例の大規模な合同軍事演習「乙支フリーダムシールド（自由の盾）」を開始した。

例年の演習だが、北朝鮮は「北侵略の核演習」とこれまで強く非難してきた。国内不満を外に転嫁するため、例年以上の核・ミサイル挑発を強行する可能性もある。

朝鮮半島情勢は、一層不安感が増している状況といっても間違いではない。



**【行事案内】**  
**鄭成長先生著書**  
**「なぜ我々は核保有国になるべきか」 (原著) 日本語版**  
**【日韓同時核武装の衝撃】 出版記念講演・祝賀会**

△**関係各位**

昨年8月、韓国で世宗研究所の朝鮮半島戦略センター長である鄭成長先生の「なぜ我々は核保有国となるべきか？」という本が出版され、大きな話題を呼び起こしました。日本も独自核武装を、という主張のこの本が、この9月1日にビジネス社から【日韓同時核武装の衝撃】というタイトルで日本語出版されました。核論議そのものがタブー視されている日本社会において、関係改善が著しい隣国、韓国の北朝鮮研究第1人者の提唱による同著の出版は、少なからぬ衝撃をもたらすものと思われます。北東アジアの平和と安定、日韓友好親善を願う立場から、

鄭成長先生の労をねぎらうとともに日本の安保論議を深化させるきっかけを作り出すため、下記の要領で鄭先生の講演と日本語版出版記念講演・祝賀会を開催しますので、ぜひご出席賜りますようご案内申し上げます。

2024年8月吉日 訳者 姜英之 (東アジア総合研究所理事長)

-----  
**記**  
-----

△**日時** 2024年9月17日 (火) 午後6時30分 (受付6時)

△**場所** 学士会館

(東京神保町、地下鉄三田線神保町駅A9番出口正面)

△**講演内容**

**【日本が独自核武装を真剣に考えるべき理由】**

**鄭成長**

(韓国世宗研究所朝鮮半島戦略センター長、韓国核安保戦略フォーラム代表)

△**参加費**8000円 (著書及び食事代) (当日支払い)

△**参加申込方法**

姜英之あてFAX 03-6231-2862またはメールeari\_kang07@yahoo.co.jp にて

氏名、所属、住所、連絡先 を明記して2024年9月10日までお送りください。

東アジアレビュー 2024年9・10合併号

第34巻・第8号 通巻210号

2024年9月3日 発行

発行人 姜英之

編集人 小野田明広

発行所 一般財団法人 東アジア総合研究所

TEL 03-6231-2361

FAX 03-6231-2862